

# 平成28年度 学校関係者評価委員会の報告

学校関係者評価委員会 委員長 黒木 美枝

平成28年度の学校関係者評価の結果、以下のとおり報告いたします。

## I 重点目標について

富士中では、今年度も重点目標として「教育の質の向上を図り、確かな学力を育成する」「生活指導の充実に努め、豊かな人間性を育む」「地域教育基盤の確立と開かれた学校づくりをとおして、思いやりの心と地域への感謝の心を育成する」の3点を挙げ、それぞれに数値目標を設定しています。「教育の質の向上を図り、確かな学力を育成する」では学校関係者評価の「授業をとおして、子どもたちに学力がついている」の肯定率80%以上を目標にしています。アンケートでは昨年とほぼ同じでしたが、学習指導についての平均値は目標値を下回っていました。逆に、生徒の学習指導についての4項目は全てプラスとなり、目標値を上回りました。保護者との三者教育面談や保護者会等、個々の学習習得状況の理解を深められるよう工夫に努めてください。「生活指導の充実に努め、豊かな人間性を育む」では学校関係者評価の「子どもたちに問題となる行動が見られることは少ない」の肯定率90%以上を目標にしています。地域の肯定率は昨年と同様目標をクリアしています。しかし、保護者の肯定率は昨年より大きく上がってはいるものの、高い数値目標を設定していることもあり、クリアできていません。今後も「人格の完成をめざして」の取り組みの継続に努めつつ、保護者が生徒の状況をより的確に把握できるよう、保護者会や学年便り等でのお知らせや周知徹底をお願いします。「地域教育基盤の確立と開かれた学校づくりをとおして、思いやりの心と地域への感謝の心を育成する」では生徒・保護者・地域ともに昨年より肯定率がプラスになりました。今後も地域と連携したボランティア活動や体験活動への参加の推進を継続してください。

## II 地域とともに子どもを育てる教育について

地域運営学校に指定されて8年目になりました。クリーン作戦、避難所運営訓練、古着回収、グリーンアカデミー、挨拶運動や代沢地区文化スポーツ交流会等の地域活動・ボランティア活動をとおして、地域との交流を図っています。地域の方々と「出会い」、そこから「学び」「気付く」。出会った人の生き方や地域や社会で起きていることを知ることから、自分の生活や生き方を見つめ直す機会となっています。また「富士の学び舎」の教育活動は、「豊かな知力」「豊かな人間性」「ことばの力」を重点目標として取り組まれています。世田谷9年教育にのっとり小学校5校と富士中とで計画的に小中連携が行われており、活動は継続され、安定しています。しかし「地域との連携について」のアンケート結果では、生徒の「学び舎の区立小学校との交流が活発である」についてと、保護者の「学び舎の活動について、十分な情報が提供されている」の肯定率は約半数と低く、更なる工夫が必要だと思われます。「学校協議会や合同学校協議会・学校運営委員会の十分な情報が提供されている」の保護者に関しても、昨年よりマイナスになっています。また、ホームページに関することも保護者・地域ともに低く、地域に関しては昨年より更にマイナスになっています。広報活動や情報発信により一層の努力をお願いします。

## III 未来を担う子どもを育てる教育について

富士中は学習の「質と量」を常に大切にしています。質としては、数学・英語における「少人数習熟度別授業」の実施、全教員による年間1回以上の授業研究・授業観察を実施し、指導方法の工夫に取り組んでいます。併せて各教科において「ICT活用授業」の推進を図っています。量としては、授業時数の確保に努めています。さらに、放課後学習・夏季補習教室や富士サタスタ、区土曜講習会・朝学習(2・3年生)等も定着しています。また、職場体験学習は2年生を対象に40の事業所の御協力を得て、9月に

実施されました。地域社会の実践の場に立つことは、社会の一員としての自覚を促し、社会性や勤労観・職業観が育まれるとともに挨拶や時間を守ることの大切さ等、社会生活を送るために必要なマナー・ルール等を学べる重要な場となっています。

スクールカウンセラーによる相談活動の充実を図る取り組みは、認知度も昨年より上がり、個に応じた対応ができます。また「富士中だより」に毎回載っている情報は大人にも役立ちます。さらに、富士中でも「いじめ防止プログラム」を1年生対象に実施しており、重点目標である「確かな学力を育成する」ことや「豊かな人間性を育む」こと、これら「質と量」を大切にする取り組みは、今後も維持に努めてください。また、9月より地域の方々の御協力により毎週水曜日の放課後、図書館開放が始まりました。地域の方々の御協力に感謝いたします。

#### **IV 信頼と誇りのもてる学校づくりについて**

今年度は「学校運営について」は教職員、保護者、地域の評価はおおむね肯定的となりました。保護者の「教職員について」、生徒の「先生について」がともに平均して80%以上で昨年度より大幅に上がりました。「学校公開や保護者会をとおして、学校の様子がよくわかる」の保護者の数値も上がりました。今後も生徒・保護者の理解を深められるよう更なる努力・工夫をお願いします。また、ゲストティーチャーの講義は毎年工夫されており、進路指導やキャリア教育とともに多面的な成長に欠かせないエッセンスになっています。区の研究指定校として「個に応じた教育支援を充実させる」ための研究の取り組み等、校内体制を充実させる更なる取り組みをお願いします。安全管理については、安全確保の向上に向け地域、保護者、学校の共通の認識を更に深めるための工夫・改善を引き続きお願いいたします。学校運営の今後の取り組みに、より一層の努力をお願いします。

#### **V 教育環境の整備について**

昨年度までで冷水器5機が全て新しくなりました。PTAの御協力に感謝いたします。今年度は2・3年生の階にも設置の要望が出ています。維持、管理の問題があると思いますが御検討いただければと思います。まだ未設置の教室へのエアコン設置や図書室の整備など、子どもたちが安心・安全な生活ができるよう、施設・設備の充実に向け、引き続き御検討ください。

#### **VI 学校生活全般について**

平均して肯定的な意見は生徒、保護者ともに昨年度より全体的にプラスになりました。生徒のアンケート結果では、「部活動について」の「入りたい部活動がある」の項目と、「学校全般について」の「毎日の学校生活が楽しい」の項目が、ともに昨年度よりマイナスとなっています。昨年度大きくマイナスだった「進路指導」・「先生」についての項目は大きくプラスに転じました。保護者の結果も、「生活指導」・「進路指導」・「教職員」についての項目が大きくプラスになりました。昨年度の対策結果が数値につながったと思われます。アンケートの自由意見欄には、生徒・保護者から多様な意見が寄せられています。その期待に応えられるように、落ち着いた環境で生徒一人ひとりが学習や学校生活に取り組み、自己を成長させる活動に臨める学校づくりをお願いします。

#### **VII 学校評価委員会の総合所見**

評価委員会としては、まず先生方の日常の努力に感謝いたします。

- 1 教職員による自己評価報告書を見ると、内容も具体的です。学校が地域の学校として意欲的に取り組んでいることが分かります。
- 2 セーフティーチャー教室や情報モラルの授業に関しては、生徒・保護者・地域とも90%以上の評価を得ています。定期的に行われている安全指導や避難訓練、地域との連携による避難所運営訓練、災

害時対応などの保護者への情報提供、校内現況や衛生面など、学校の安全性に対しての数値は、昨年度に比べ、全体的にプラスになりました。保護者・地域の方々とともに、安心・安全な学校づくりへ更なる努力と、密な連携をお願いします。

- 3 生徒たちは富士中が好きで誇りをもっており、楽しく学校生活を送っていることが分かります。今年度は、学習指導、進路指導、先生についてのマイナス値がプラスに転じ、全体的に大きく数値が上がりました。生徒たちにとって最大の教育環境は教師自身の姿そのものであり、人間としての豊かさや広い分野での教養を求められると思います。学習面でも「質と量の確保」をこれからも続けていただくとともに、生徒たちと向き合う時間の確保にも尽力をお願いしたいと思います。また、各御家庭・地域の皆様におかれましても、手本となる良き家庭環境・地域環境として温かく子どもたちを見守っていただきたいと思います。
- 4 保護者による「さよなら、声かけ当番」は、今年で17年目になりました。わが子だけではなく、地域の子どもたちの様子を知る良い機会となっています。「子どもたちを見守る」この素晴らしい取り組みを、ぜひ継続していただきたいと思います。
- 5 今年度も、夏の部活動合宿は98名の参加により蓼科で実施されました。校長先生を初め、先生方や外部指導員、看護師の方々等、支えてくださいました関係者の皆様に感謝いたします。
- 6 学校を取り巻くいろいろな環境が、年々、整備かつ改善されていることを評価いたします。なお、継続する課題につきましては、引き続き検討をお願いします。

学校関係者評価委員会	委員長	黒木	美枝
	委員	渡邊	真弓
	委員	横光	香里
	委員	中村	説子
	委員	三島	祥子
	委員	森	奈弓